送り仮名(2)

活用のない語の送り仮名

・名詞

原則 送り仮名を付けない。

月・山・彼・何

（例外）他の読みと間違えるおそれがあるものなどは最後の音節を送る。

後ろ・自ら・情け・勢い・辺り

※活用のある語が変化して名詞になったもの（転成名詞）は、元の語の送り仮名の付け方にそろえる。

(動)動く → (名)動き

(形)重い → (名)重み

(形)正しい → (名)正しさ

・副詞

原則 最後の音節を送る。

必ず・少し・再び・全く・専ら

（例外）主な例外

直ちに

・連体詞・接続詞

原則 最後の音節を送る。

我が・故に・及び

※連体詞・接続詞はひらがなで書くことも多い。

確認テスト

(1) 次の――線部を漢字に直し、必要なら送り仮名を付けて答えなさい。

うしろから声をかけられる。

〔　　〕

(2) 次の――線部を漢字に直し、必要なら送り仮名を付けて答えなさい。

しあわせが訪(おとず)れる。

〔　　〕

(3) 次の――線部を漢字に直し、必要なら送り仮名を付けて答えなさい。

たよりが届く。

〔　　〕

(4) 次の――線部を漢字に直し、必要なら送り仮名を付けて答えなさい。

世界でもっとも高い山。

〔　　〕

(5) 次の――線部を漢字に直し、必要なら送り仮名を付けて答えなさい。

あくる日の朝。

〔　　〕

(6) 次の――線部を漢字に直し、必要なら送り仮名を付けて答えなさい。

ねばりづよさが私の良さだ。

〔　　〕